

本件控訴を棄却する

[illegible][illegible][illegible]

又論は登録申請義務が期間経過後も存続することと、犯罪の既遂時期とを混同し、右犯罪を継続犯なりと称して公訴時効の進行を否定せんとするの例えども、を公訴同時効は犯罪一般につき定められた規定であつて刑訴法には何等その例外あるを見なすれば、い。所論に従えば右犯罪は仮令何十年を経過しても法令の廃止なき限り登録申請をば、果すまで公訴時効にかかるといふことなり時効制度を没却するにちか極言すれど、之を有名無実の帰せしめるものゝと云ふも過言ではない。かかる解釈は刑法主義を消極的に否定するものゝとてあるつて専制国家に於てはいざ知らず、罪刑法定主義を法典の金科玉条として堅持する民主憲法の下に於ては断じて容認することができまい。

なる一両はる
 こはな新旧政
 とてし新政で
 るいす蓋く右
 あつ解といす
 の罰に用然す
 もの処なら適
 たの犯なを提
 し者続ば法あ
 正た継れ新で
 改し謂け然と
 を犯所な当か
 七の罪をわは
 〇の犯といで
 第二違つ書
 令務しにいな
 勅義果ないに
 は申請すばと
 一登録はそが
 八前規定せの
 三正を余とる
 第三改するの
 令はき存る区
 政項べに罰を
 四年七のに罰
 四第二よに法
 二則に規定の
 和附例る旧の
 昭そのか新の
 更に前がより
 る、従、犯罪
 にお、ば、犯
 法にの施は
 法と

即ち右政令の規定から考えても所論は到底之を背認することができない。
以上説明の通り論旨は全く理由がなく本件につき公訴時効の完成を認めた原審の
解釈は洵に正当であり原判決には他に違法の点がないから本件控訴は之を棄却すべ
きものとし刑訴法第三九六条に則り主文の通り判決する。

(裁判長判事 三野盛一 判事 谷弓雄 判事 渡辺進)